

[1番 小栗さゆりさん登壇]

○1番(小栗さゆりさん) 小栗さゆりと申します。  
よろしくお願ひいたします。

それでは、通告に従いまして質問させていただきます。

私は、大井川のほとりで古民家一棟貸しの民泊を営んでおります。開業して1年、仙台から移住して2年がたちます。現在、日本の旅行スタイルは、団体旅行から個人旅行にシフトしつつあります。また、旅先で食事をしたり、お土産を買ったりというモノ消費から、旅先で人と触れ合ったり、体験をしたりというコト消費を重視する旅行者が増えております。

そんな中、島田市でも来年、(仮称)大井川流域観光拠点オープンするなど、さまざまな観光への取り組みが進められているとお聞きしております。私も完成をととても楽しみにしておりますが、それと同時に、コト消費を好む観光客が増えつつある傾向を踏まえて、大規模な観光開発だけでなく、地域住民との交流や地域ならではの体験ができるような観光コンテンツづくりを進めていく必要があるのではないかと感じております。

そこで、大井川流域の観光のあり方について質問させていただきます。

(1)島田市内にホテル、旅館、民泊などの宿泊施設はどのくらいありますでしょうか。

(2)今後の大井川流域の観光計画について、予定されている取り組みをお聞かせください。

(3)地域に潜在している空き家や、豊富な知識と経験をお持ちの地域住民の活躍が、島田らしい観光コンテンツづくりに結びつくのではないかと感じています。こうした地域から生まれる観光コンテンツに対する市のお考えをお聞かせください。

(4)本地域を都会で暮らす子供たちの第二のふるさととして位置づけられるような観光コンテンツづくりもおもしろいかと思いますが、市としてのお考えをお聞かせください。

[1番 小栗さゆりさん発言席へ移動]

○議長(村田千鶴子議員) 染谷市長。

[市長 染谷絹代登壇]

○市長(染谷絹代) 小栗さんの1の(1)の御質問についてお答えをいたします。市内の宿泊施設につきましては、ホテルや旅館、民泊施設を含め28カ所、宿泊人数にして約1,800人の定員規模であると把握しており、宿泊施設の数としましては、金谷地区が少ない状況であります。今後、旧金谷中学校跡地に計画されているアウトレット施設や、島田金谷インターチェンジ周辺の賑わい交流拠点などの開業によって宿泊の需要が高まると予想されますので、全体的にさらに供給が不足することが懸念されます。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。今後の大井川流域における観光計画でございますが、現在、市の観光事業を戦略的に推進するため、島田市観光戦略プランの策定作業を進めているところです。具体的な取り組みは、この戦略プランの策定作業の中で実施する現状調査や、観光客の動向調査の結果を踏まえ、ターゲットを明確に踏まえた上で計画していくこととなりますが、戦略の軸となるエリアは大井川流域であると考えております。現在も取り組んでおります大井川鐵道を活用したイベント事業や、豊かな自然を生かしたアウトドアツーリズム事業につきましても、戦略プランの中でさらに磨き上げていくこととしております。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。地域の方々による積極的な観光振興活動は、市といたしましても大変にありがたく、喜ばしい活動でありますので、これを支援する補助制度の周知や連携した情報発信などはもとより、事業者や地域の方々による観光コンテンツづくりにつきましても、ぜひ協力させていただきたいと考えております。

また、地域全体の活動は、この地域の方々とは外

からこの地域に関心を持ちインパクトを与える人材につながる機会になり得ます。市といたしましても、地域の方々がこうした地域外の人材を受け入れ、ともに地域の活性化に取り組んでいただけるよう、間に立つなどの支援をしてみたいと考えております。

次に、1の(4)の御質問についてお答えをいたします。大井川流域の豊かな地域資源と自然環境、そして、そこでの体験活動は、特に都市部のお子さんにとっては得がたい経験につながるものと思っておりますが、これは、農山村を有する全国各地域に言えることでもあります。第二のふるさととして受け入れていただくためにも、この地域ならではの魅力を磨き、差別化を図っていく必要がありますので、先ほど申し上げた観光戦略プランの中で方向を示していきたいと考えております。

以上、答弁申し上げます。

なお、再質問につきましては、担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（村田千鶴子議員） 小栗さん。

○1番（小栗さゆりさん） お答えありがとうございます。宿泊所の数につきましては、大井川鐵道が多くの観光客を呼び込んでいる現状を思うと、夏休みなど現時点で既に不足しているのではないかと感じております。今後の観光計画とともに、地域が力を合わせ、たくさんの人々を受け入れられる体制ができることを期待しております。

次に、(4)の質問についてですが、私自身、新興住宅地で生まれ育ち、自然豊かな田舎との接点がない環境で育ちました。2年前、高熊という地域に宿という拠点を果たしたことで、私にとっていわゆる行きつけの田舎ができたような環境になりました。その拠点に自分自身が行き来するうちに、自然の中に身を置く時間というのは、動物である人間にとってとても大事なことだと感じるようになってまいりました。世の中のデジタル化が進め

ば進むほど、都会で暮らす子供たちだけでなく、大人にとっても人間から動物へ心と体をリセットする場が間違いなく必要になるだろうと感じております。

そういった人たちの受け入れられる地域の包容力が、第二のふるさととしてほかの地域との差別化を図る上でも鍵になってくるのではないかと感じております。そして、受け入れる場所として、地域に眠っている田舎らしさ、島田らしさを残した魅力ある空き家を活用できればと思っております。

そこで質問です。空き家を宿泊所として活用することは視野にありますでしょうか。

○議長（村田千鶴子議員） 三浦地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（三浦洋市） それでは、小栗さんの空き家の活用についての御質問にお答えをいたします。市では、過疎地域の指定を受けております川根の地区におきまして、空き家バンクを運営しています。移住・定住の促進にこれをもって取り組んでいるところですが、昨年度までに16件のマッチングが成立をしているところでございます。

この大井川流域は大変魅力的な場所であり、都会では味わうことができない体験ができる場所だと思っております。その中で、空き家はこうした移住や観光交流の有効な受け皿となるものだと考えています。

しかし、一方では、建物の状態が悪いとか、こんな田舎に住みたがる人はいないだろうと二の足を踏んでいる所有者の方もおられるようで、空き家バンクへの登録が伸び悩んでいるような状況にございます。

市では、建物の改修や家具の片づけ、そうしたものに対する補助制度を設けるなど、空き家バンクの利用促進に向けた支援も行っておりますので、この制度の周知を図りながら、空き家のさらなる有効活用を進めてまいりたいと考えております。

○議長（村田千鶴子議員） 小栗さん。

○1番（小栗さゆりさん） ありがとうございます。住宅のリフォームの仕事に長い間携わってきた身としましては、一つでも多く家族の思い出が詰まった家を引き継ぎ、活用できればいいと思っております。

また、引き取り手だけでなく、元の持ち主の気持ちにも寄り添ったような空き家の活用が進んでいくことを期待しております。

最後に、私が営む古民家の宿を通して感じている地域の力について報告させてください。今年の6月、アメリカから2人の青年が語学留学のため宿に1カ月滞在してくれました。私は週に二、三回、彼らに会いに行き、買い物を手伝ったり、一緒に出かけたりしました。出かけた内容としては、例えば、抜里にありますサヨばあちゃんの休憩所に連れていき、地元の人たちと交流をしてもらったり、しまだきものさんぽの会のメンバーに助けをもらって、宿まで来ていただいて、浴衣を着つけて、抜里のホテル鑑賞会へ出かけたりと、島田らしいもてなしをさせていただきました。

そんな中、私が頼むわけでもなく、自主的に彼らに習字を教えてくれたり、座禅体験の場をつくってくれたり、駅から自宅まで送り届けてくれる地域の人たちの優しい姿がありました。

私が島田に移住して一番よかったと思う点もありますが、地域の人々のさりげない思いやりやほどよい距離感、世話好きなどがこの土地の魅力であり、力であると思っています。

大井川の川どめに遭った旅人を受け入れてきた歴史が、このような包容力のある地域をつくり出したのかもしれないと感じています。大井川が育てた地域の人々の魅力だと思います。

私は、自分自身が移住者だからこそわかる島田の魅力、これからもっと多くの人にPRしていきたいと思っております。

以上で私の質問を終わらせていただきます。本日はこのような貴重な機会をいただき、本当にあ

りがとうございました。

○議長（村田千鶴子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） まだ残り時間が少しあるようなので、御答弁になるかどうかわかりませんが、お話をさせていただきたいと思えます。

今、小栗さんのお話の中に、地域の包容力が差別化を図るためにも大きな資源になるというお話をいただきました。移住者だからこそわかるこの地域の魅力というものについて語っていただいて、本当にありがたく思います。

ここに住む人たちは、さりげない思いやりであったり、適度な距離感であったり、いろいろなことで困っている人があつたらすぐに助けようと思っていることが当たり前のことなものであるから、その当たり前のことがどれほど日本国全体として魅力であるのかというようなことにあまり気づかない。むしろ外から来た人によってそれが価値づけられて、自分たちにはそんないいところがあったのだと気づくのが地元の人たちであります。

私も、昔、ここに越してきて居ついた者の一人として、この島田の魅力に取りつかれて、今、こうした仕事をしておりますので、ぜひ外から来た人の新鮮な目を地域振興に、まちづくりに役立てていただけたら本当にうれしいと、お話を聞いていました。

小栗さんは、地域の包容力という言葉を使いましたけれども、私は、こうした第二のふるさとという、いわゆる関係人口、後ほどそうした御質問もあるかと思いますが、関係人口を生み出すには、その関係人口、外から来る人を迎え入れられる、その人材がいるところにしか外から人は来てくれないのです。やはり地元にとりだけ魅力的な人がいるのか、そして、外から来る人と地元の人をつなぐ接着剤の役割をする中間支援の人がいるのかというところが、こうした第二のふるさととして島田に多くの人に来ていただけるかどうかの分かれ目だと日ごろから思っております。

また、小栗さんのような若い方たちでないと、若い人たちは呼べないのです。これも事実でございますので、ぜひ多くの島田の魅力や、さりげない日常の中での気づいたことや感じたことを発信していただいて、それがよそにはない、まさに差別化された島田の魅力になって、多くの方たちにまずは第一歩、来ていただけたらと思いますし、その方たちがしっかりとこの地にとどまって生活できるようにというところの支援を行政は真剣に考えて、施策として打っていきたいと思いました。

今日は、住宅のリフォームを仕事としてこられたと先ほどお話しいただき……。

以上で終わります。後ほどにします。